



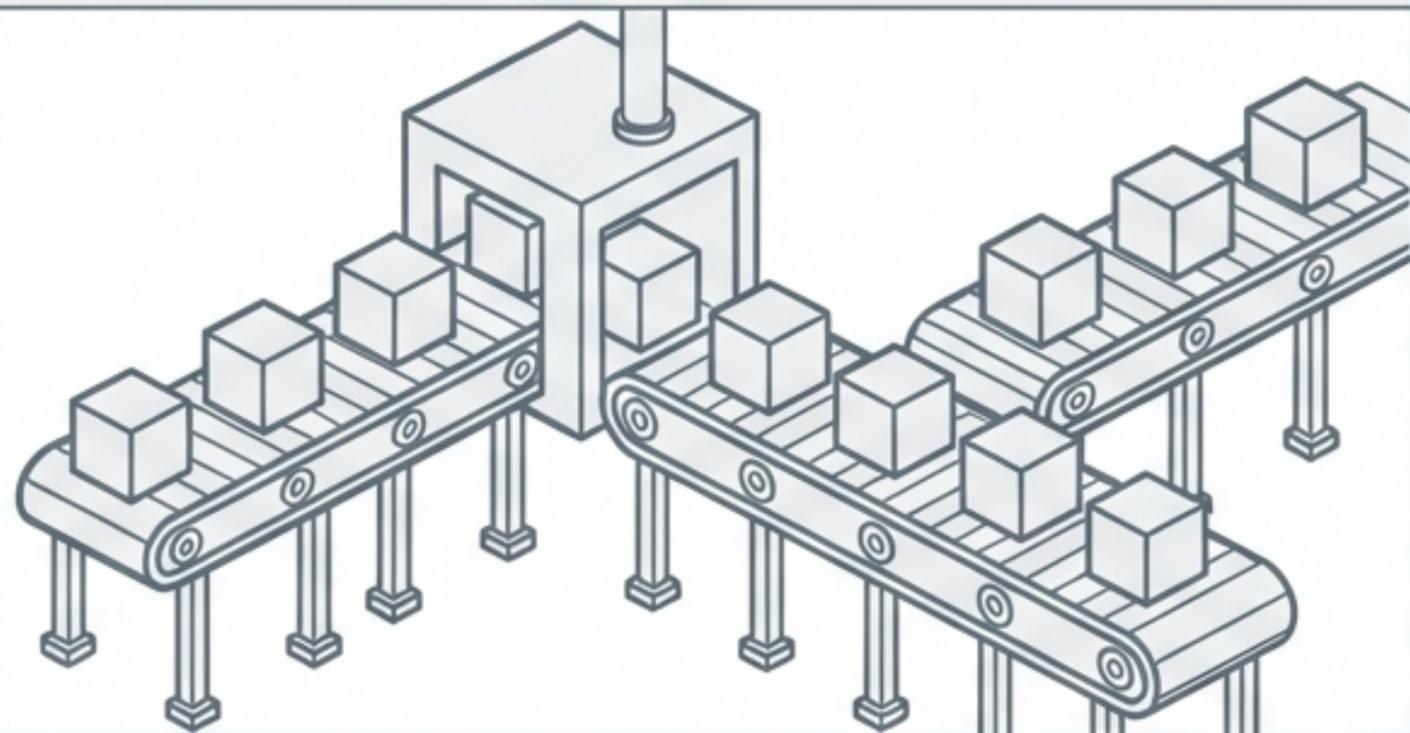
知識社会における「プロジェクト管理会計」の設計図

属人的な進行管理から、精緻な財務コントロール・エコシステムへの進化

株式会社プロジェクト・イノベーション
代表取締役CEO / プロジェクト管理会計士
古谷 幸治

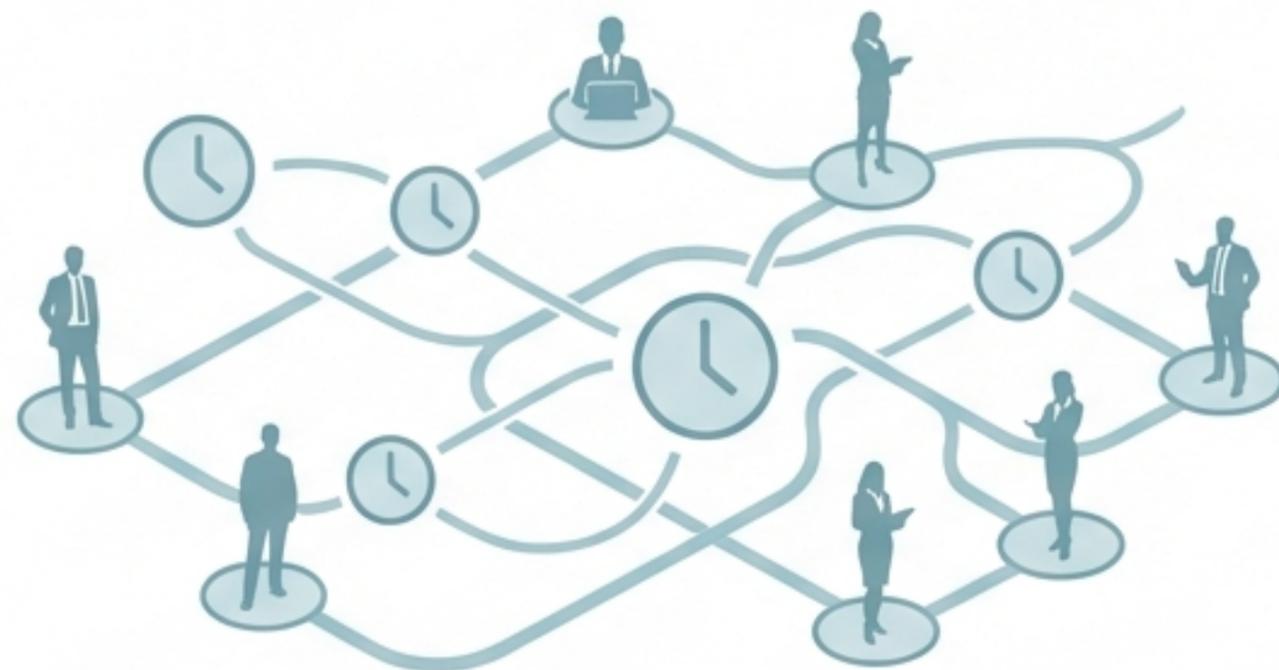
知識労働の生産性を測る「新しいモノサシ」が欠如している

工業社会



従来の会計システムは、工場での大量生産を前提としています。

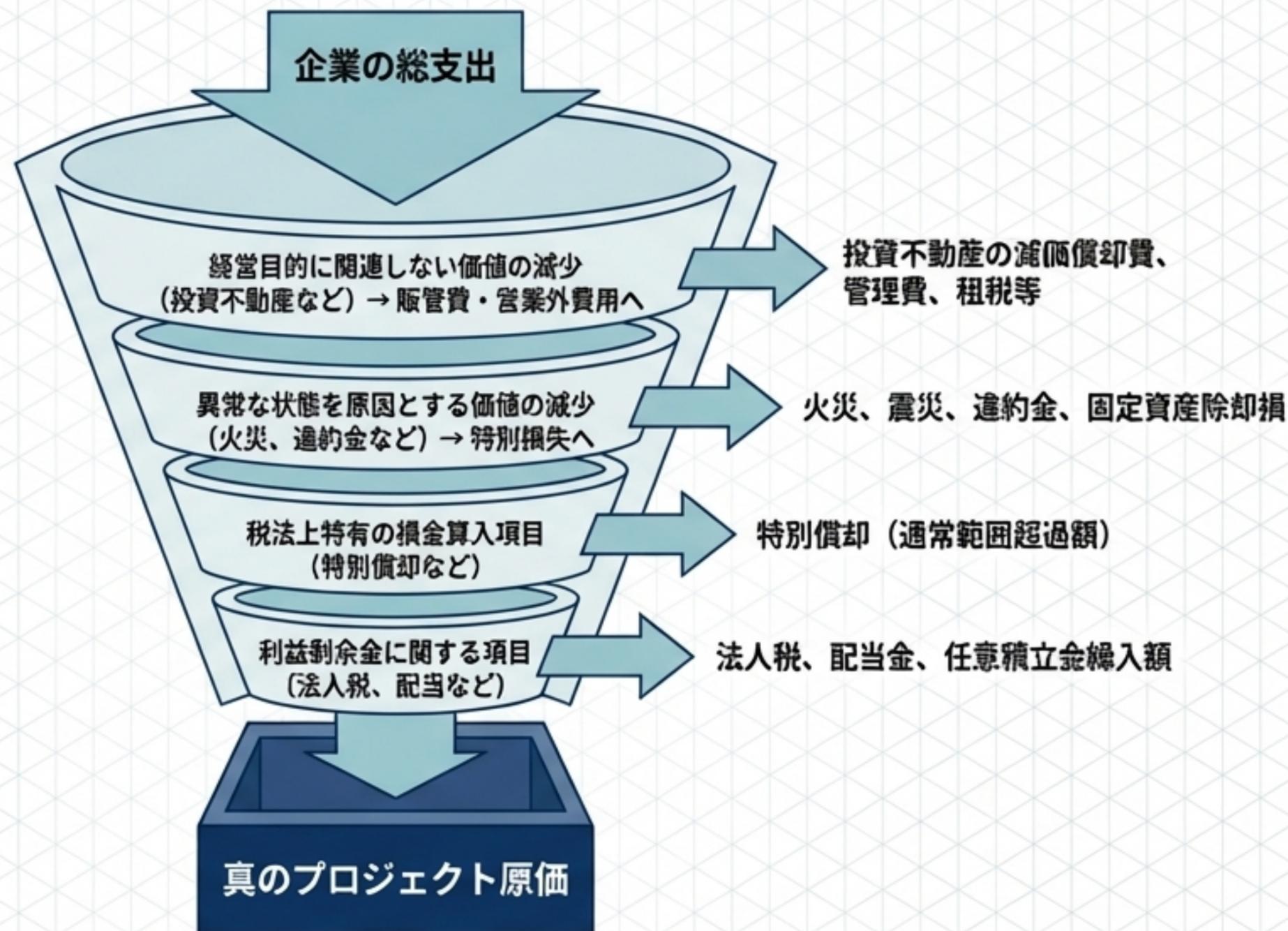
知識社会



「プロジェクト型ビジネス」では、最大の資産は「知識労働者の時間と専門性」です。

従来の仕組みのままでは、プロジェクト単位の「真の採算性」はブラックボックス化し、企業の利益構造を見失う致命的なリスクを生み出します。

組織の損失と「真のプロジェクト原価」を分離する財務フィルター



プロジェクトの原価計算において、これら「非原価項目」を厳密に排除しなければ、現場のパフォーマンス評価が歪み、正しい経営判断が下せなくなります。

棚卸資産の減耗・評価損を判定する「診断マトリクス」

	経常的	異常
臨時・多額	特別損失 経常的だが、重要な事業部門の廃止など臨時的なもの。	特別損失 災害や盗難など、異常かつ多額の損失。
不可避・通常	売上原価 / 販管費 製造に関連し不可避的に発生。	営業外費用 異常な原因だが小規模。

ソフトウェアのバグ修正や仕様変更が「経常的」か「異常」かの判定が、営業利益を直接的に左右します。

複雑な会計理論を「現場のシステム」へ実装する設計者

Personnel Dossier



代表取締役CEO / プロジェクト管理会計士

古谷 幸治

工業社会から知識社会へのシフトを見据え、知識労働者の生産性を最大化する「プロジェクトごとの採算管理システム」を構築するプロフェッショナル。

業務設計

ITアーキテクチャ

財務会計

経営企画

業界専門性：  ソフトウェア開発  ITコンサルティング  イベント制作  Web制作  不動産/建設  人材

3つの産業を横断して体系化された 「独自のメソッド」

1991～

不動産・建設の原価哲学

背景: デベロッパー財務部にて和議（民事再生）を経験。

抽出された知見: 厳密な原価管理とキャッシュフローの重要性を骨の髄まで学ぶ。

2002～

IT/CRMのシステム化

背景: エンプレックス（現SCSK）取締役CFO。上場準備と200社超のコンサルティング。

抽出された知見: 不動産の会計知識をナレッジワークに適用し、システム「eMplex PBM」へ昇華。

2010～

エンタメの動的プロジェクト

背景: 東証一部ホリプロにて経営企画責任者。テレビ事業やタレントプロデュース。

抽出された知見: 最も不確実性の高いプロジェクトにおける動的なフォーキャスト（着地見込み）管理を実装。

ツールは溢れているが、利益の「全体像」は描けない

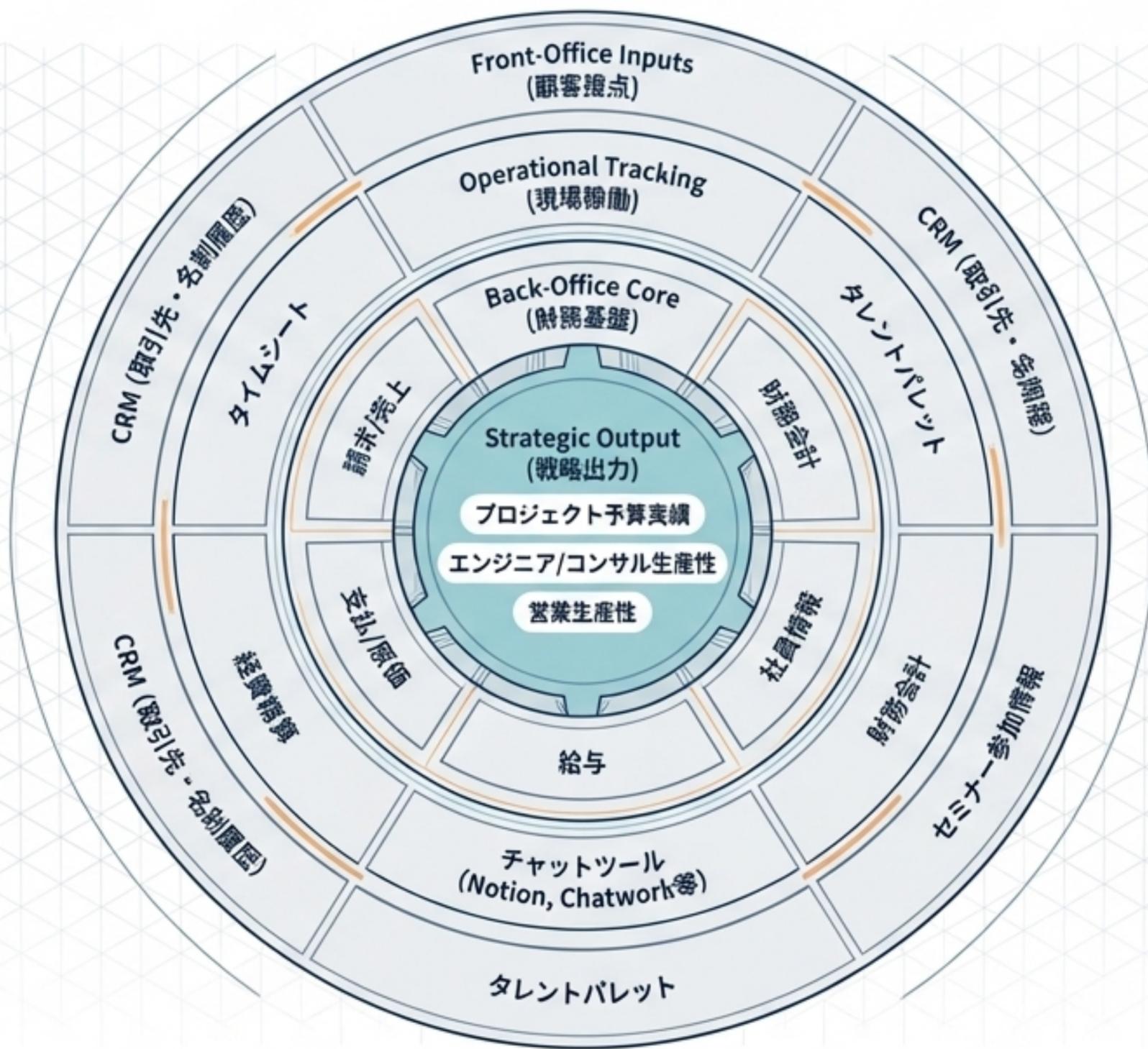
現代のプロジェクト型企業では、SFA、タイムシート、経費精算、財務会計など、多数のツールが導入されています。



The Problem

- データが分断され、リアルタイムの「プロジェクト別収支」が見えない。
- 現場の入力負荷が高く、正確な原価計算（特に労務費）が不可能。
- 結果として、過去の「結果」は分かっても、未来の「着地見込み」が予測できない。

プロジェクト管理会計を完全統合する「エコシステム・アーキテクチャ」

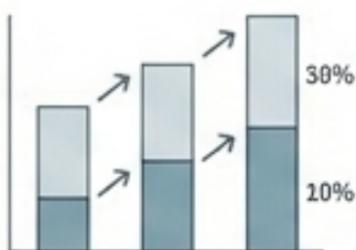


分断されたデータを一つの脈絡で繋ぎ、「真の原価」を自動抽出する基盤。

データを「次の一手」に変える6つの戦略ダッシュボード

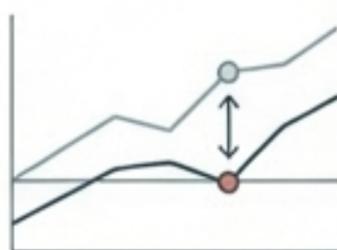
事業別・収益性レポート

事業ごとの売上・粗利益・粗利率を可視化。



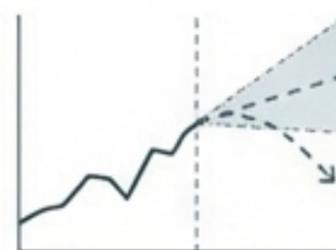
プロジェクト収支実績

個別プロジェクトの真の黒字/赤字を判定。



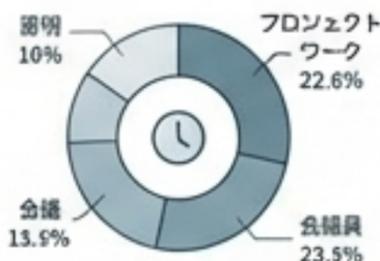
フォーキャストレポート

未来の着地見込みをリアルタイム予測。



稼働分析レポート

知識労働者の時間の使い方を最適化。



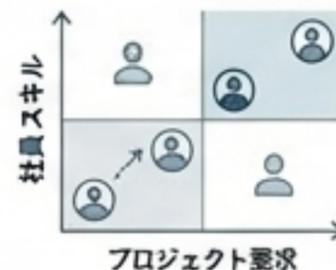
営業支援ネットワーク

名刺情報を起点とした属人属人的な営業からの脱却。



タレントマネジメント

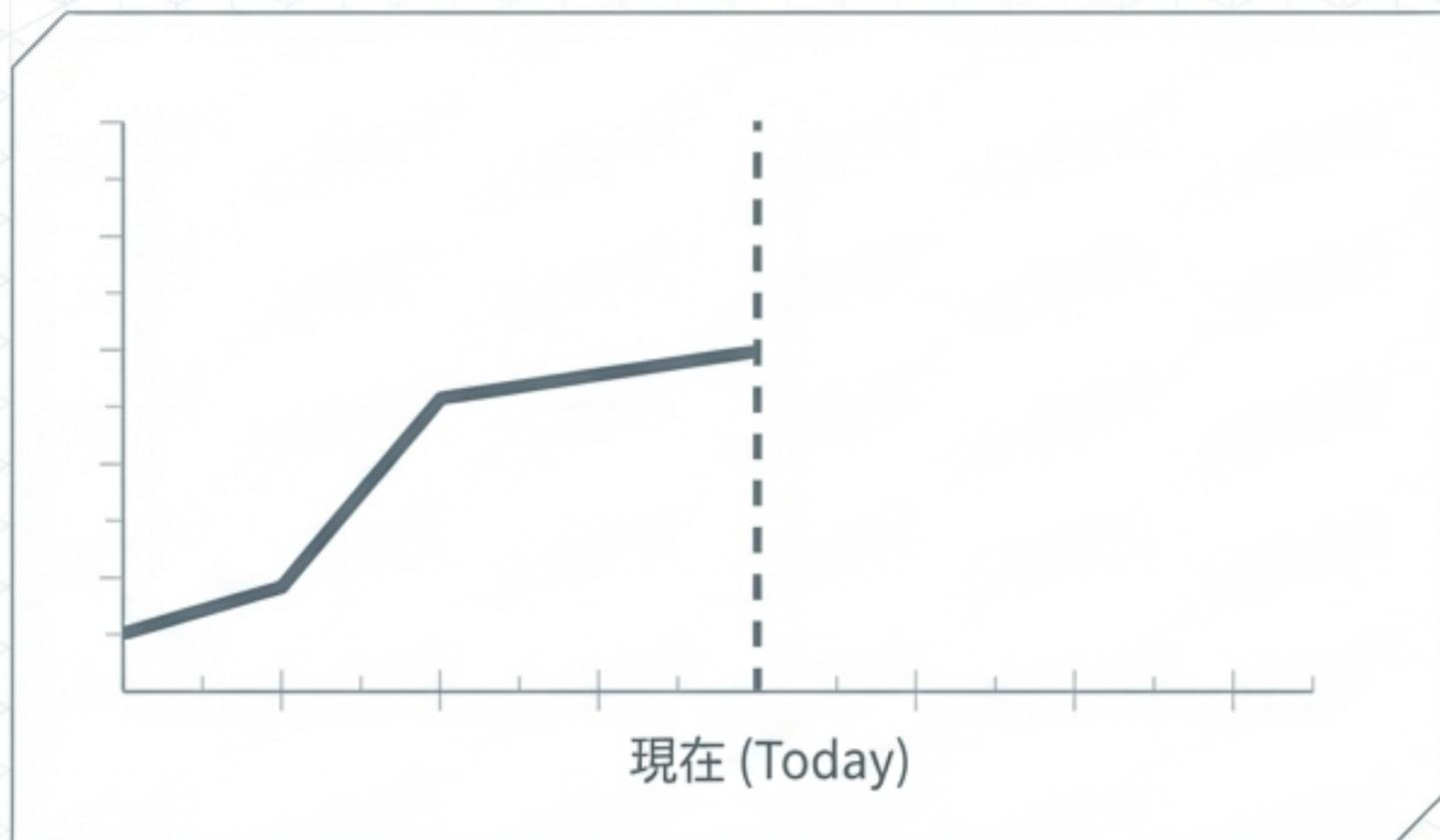
人材のスキルとプロジェクトの最適配置。



最大の武器：過去の集計ではなく「未来の着地」をコントロールする

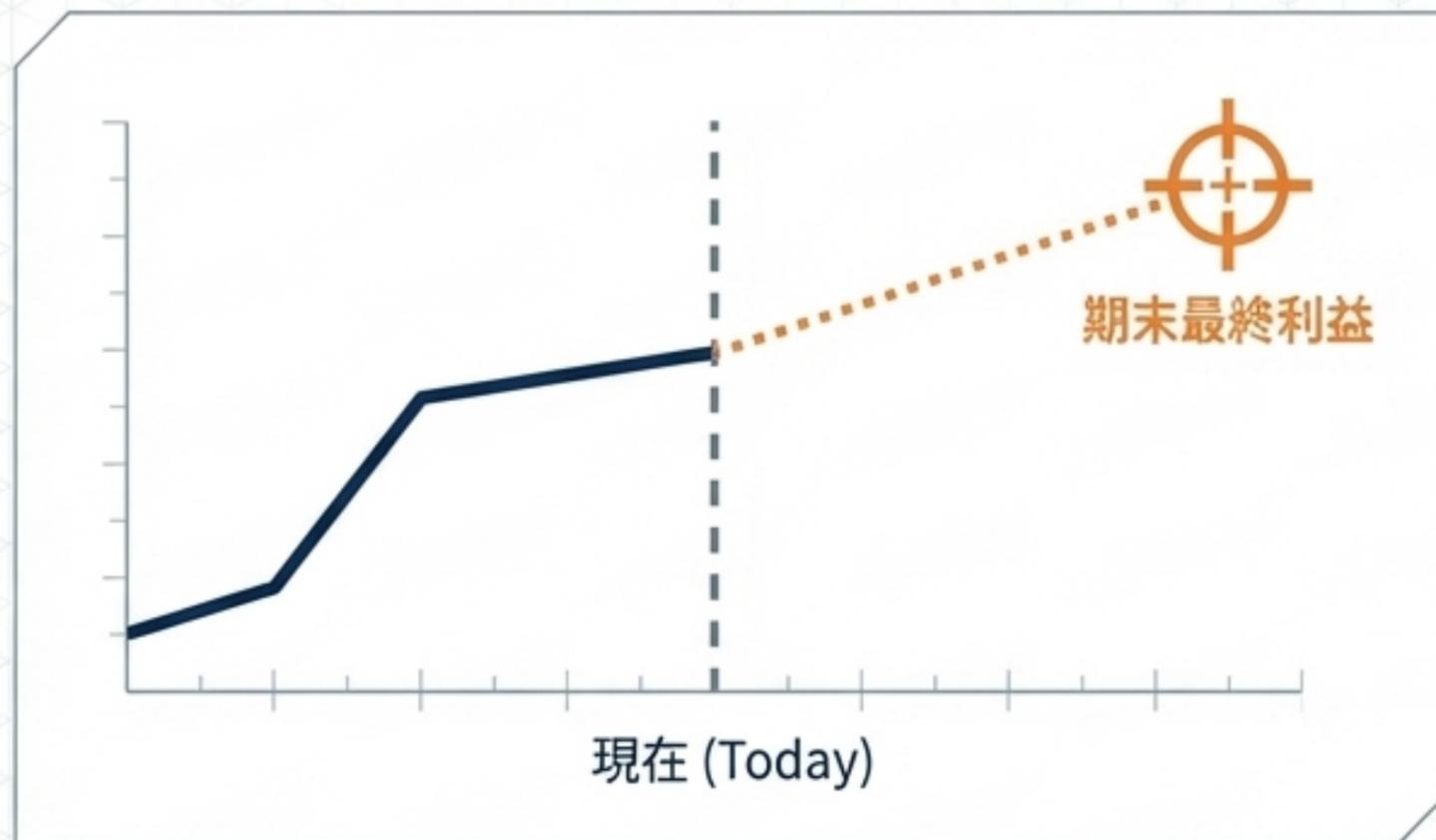
独自の「フォーキャストレポート（着地見込み管理）」

従来会計



終わった月の結果を翌月下旬に知る「バックミラー型」経営。軌道修正が間に合わない。

プロジェクト管理会計



現在の進捗、未確定の受注見込み、将来の稼働予定を統合し、プロジェクト完了時および期末の最終利益をリアルタイムに予測する「レーダー型」経営。

知識社会における利益は、精緻な「設計」から生まれる



- ✓ 複雑化する非原価項目を正確に分離する財務理論。
- ✓ 30年のキャリアと3つの産業から抽出された現場の知見。
- ✓ それらをシステムとして統合する独自のアーキテクチャ。

プロジェクト・イノベーションは、あなたのビジネスの「コントロールルーム」を構築し、
見えない利益を確実なものへと変換します。